

## 新しい家族的コミュニティ

他方で、高齢者、現役世代、子どもが世代や障害の有無を超えて、とくに血縁的なつながりがなくとも、支え合いながら暮らせるような住まい方についても、多様な試みが広がっている。たとえば、鹿児島市の賃貸住宅「ナガヤタワー」は、かつて皆が支え合った長屋を現代に再現するというコンセプトで、一般の賃貸住宅に家族的な支え合いの要素を組み込んでいる。鹿児島中央駅にほど近いこの住宅は、外観は長屋とかけ離れた六階建てのモダンなマンション風である。だがよく見ると、各居室のバルコニーが「縁側」のようにつながっていたり、二階には共同の大きなキッチン、食堂があるなど、少し変わっている。

この「ナガヤ」の「大家さん」は隣で診療所を経営する堂園晴彦医師で、堂園さんはここを、高齢者、子ども、学生などが適度な距離を保ちつつも支え合って暮らす空間として設計した。

高齢者にとっては必要に応じて介護・医療のサポートが受けられる終の棲家である。生活のコーディネーターも滞在し隣の診療所にはホスピスまである。その一方でこのマンションには、事情があつて親と離れて里親と暮らす子どもたちの住居があり、さらには発達障害の子どもたちのデイサービスをおこなう部屋もあり、高齢者との交流が可能だ。学生が入居して高齢者のゴミ出しなどを手伝うと家賃が安くなるなどの仕掛けもある。



「ナガヤタワー」は一見すると瀟洒なマンションだ(©アイオイ・プロフォート)